

優秀

今、私たちができることは

相模原市相陽中学校

2年

功刀ほのか

みなさんは障がいのある方と聞くと、どんな印象をもちますか。現在、私たちの日常生活には誰もが住みやすい社会にするために様々なものが設置されています。また障がい者の差別を無くそうという動きもみられています。それでは、そのような社会の動きがみられる中で私たち一人一人ができることはなんでしょうか。今回のテーマ設定の理由もそこからきています。このことを考えた時に三つのことが考えられたので自分の経験もふまえながら紹介していきたいと思います。

まず一つ目は認め合うことだと思います。どうしても障がい者というワードを聞くと、大変そう、つらそう、苦しそうといったネガティブなキーワードしかでてこないことが多いです。たしかに障がいというハードルがあるので普通にできないこともあると思いますし、つらい、苦しいと考えている人もいます。けれどパラリンピック代表の人たちを思い出してみてください。代表の人たちは、ハードルがありながらも一生懸命にスポーツを楽しんでいたと思います。このことから、障がいのある方は、「障がいがあったとしても」と考える人と「障がいがあるから」と考える人がいると感じました。私たちはそのことを理解して障がい者によって障がいへの捉え方が違うことを認めることが大切だと思いました。また障がいのある方同士でも考え方、捉え方を認め合っていけば、互いに過こしやすくなると思います。

二つ目は福祉マークへの理解です。私は現在、美術部に入部しています。そしてその活動の中で福祉ポスターコンクール応募のため

に福祉マークについて調べる機会がありました。その時に、見かけたことはあるけれど、どんな意味かは知らないマークがいくつかありました。このような経験から、私はマークについて興味をもち、もっと知りたいという気持ちに変わりました。私は自分のようになにかがきっかけでもっと多くの人に意味を知ってほしいと思います。そのためには、もっとマークの意味を知ってもらうために、ポスターや、パンフレットをつくれればよいと感じました。そして身につけたマークの知識でマークをつけている人に思いやりの心をもってほしいと思いました。

最後に三つ目は、偏見をもたないことです。前にもかいた通り障がい者のイメージは、大変そう、つらそう、苦しそうといったものから人によっては怖そうと感じている人もいるかもしれません。けれど忘れてほしくないのは個人差があるということです。人にはそれぞれ生まれもった性格や、自分なりの考え方があります。もちろんそれは障がいのある方も同じです。それなのに私たちが勝手に障がい者はこんな人たちなんだ、だから私たちはこうしてあげるんだと型にいれこんでしまつては、生きづらくなってしまふ人もいます。また、それは障がい者の家族の方にも当てはまります。勝手な偏見で障がい者の家族はかわいそうだと決めつけてしまつてはいけません。これもまたその人の考えを尊重すべきだと私は思います。

最後に私自身が障がいのある方のためにできることを考えてみました。それはあたたかく見守ることだと思います。今までの話からも障がい者によって考え方は様々だと思いました。なのでむやみやたらに声をかけるのではなく、本当に困つていそうな時だけとかにするのがいいと思います。最後に一つみなさんに聞きたいことがあります。みなさんは障がいのある方と聞くと、どんな印象をもちますか。自分の解をだしてもらえるところうれしいです。